

令和4年度 さぎなみっこ保育園 評価の公表

保育者が保育の質の向上を図る目的で実施した、自己評価に基づき、園全体としての評価、課題、今後の目標を検討し、保育計画・保育実践の共通理解を図り、保育がより良いものになるよう、園の自己評価として公表いたします。

園全体の評価

●今年度の評価

- ・前年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、子どもたちの健康や安全を守るため、職員全員で感染予防対策を実施した。新年度が始まり、社会状況に応じて、行動制限の緩和もみられ、園外活動を再開することができた。福祉バスを利用した園外活動では、平和学習（平和記念公園）・遠足（中城公園・宜野座道の駅）・芋ほり遠足（中城村芋畑）など、子どもたちにとって活動の幅が広がり
- ・戸外活動の制限も緩和され、後半からは園庭あそびや散歩、戸外遊びなども多く取り入れ、身体を使った遊びに参加することができ、少しずつ子どもたちの体力向上や脚力強化に努めることができた。
- ・保育者は、日々の保育業務に加え、感染予防対策に努めながら、子どもの健康と安全に配慮し、成長発達に応じた保育計画を立て、一人ひとりに寄り添って保育に取り組むことができた。
- ・園外研修は、オンライン研修が充実し、積極的に参加することができた。また、園内研修では、キャリアアップ研修で学んだ知識をその他の保育者に園内研修を通して伝えたり、クラス担任によるクラス運営や園児に対する配慮や手立てなどを情報共有したりと、保育者の知識や技術の向上に努めることができた。
- ・園内行事は、新型コロナウイルスの感染拡大と感染予防対策を十分に考慮しながら、運動会・おまねき会・せいかつ発表会を開催することとなった。その際は、保護者へ検温チェックやマスクの着用、手指消毒、行事参加人数の制限についてご協力依頼を行い、職員は会場内のこまめな換気や消毒、また参加者が密にならないように座席数を制限し、距離を取ることを意識した。

畑の活動 ⇒ 園庭の畑の石拾いや雑草抜き、耕してうねづくり等、畑の整備を行い、オクラやゴーヤーの苗、じゃがいもの種芋植え付けから収穫までの一連の作業を地域ボランティアの方と一緒に楽しみながら、園庭菜園での野菜作りを体験することができた。
また、給食で提供されたスイカの種を取って蒔くという、初めての試みにチャレンジした。子どもたちは、自ら食べたスイカの種とあって、喜んで種を蒔き、意欲的に水まきや観察をしていた。つるが伸び、花が咲き、小さなスイカの実になると、子どもたちは嬉しそうに満面の笑みを見せてくれたことが印象的であった。残念ながらスイカを食するまでには至らなかったが、貴重な体験となり、食育活動に繋がったと思う。

田植えの活動⇒今年度は、沖縄の米どころとして知られる金武町の JA おきなわの協力で例年とは違う米を使用した。

① 田んぼの整備、②海水汲み、③籾の選別、④米の種蒔き

といった流れで田植えの工程を子どもたちと一緒に行ったが、田植えの後に大雨が続き、稲が根付く前に流されてしまったことで、稲の生長を見ることができず、残念な結果となった。

また、今年度は、特殊シートとバイ土を使用したことで、種稲の生長が予想よりも早かったことや悪天候が重なったこともあり、田植えの時期がずれてしまったことも原因だったと思う。

今回の学びを踏まえて、次年度の田植え活動に繋いでいきたいと思う。

●今年度の気づき

今年度の前半は、新型コロナウイルス感染予防対策を考慮しながらの保育実践だった。社会状況に応じて徐々に行動制限が緩和され、戸外活動や行事等の保育実践形式に変化が見られ、おかれた環境に左右されながらも、子どもたちの生活と遊びをより良いものにするために創意工夫し、全職員で取り組むことができた。

どのような環境においても、日々考え学びながら、子どもたちの安全と安心を守り、生活とあそびを提供することが保育士の専門性であると再認識した。

今後も、子どもたちの成長を見守りながら、保育者ひとり一人が日々精進できるよう、保育実践に取り組んでいきたい。

●次年度の目標

- ・園の方向性を確立し全職員で情報共有をしっかりと行い、日々の保育に努め、子どもたちにとってより良い環境を整え、保育計画・保育実践に繋がられるようにする。
- ・観察、記録、工夫、計画、行動の保育の基本を身につけ、報告・連絡・相談、確認を徹底していく。
- ・食育リーダーを中心に食育研修に参加し、そこで学んだことを他の保育者と共有しながら、食育活動を継続する。また、保育者は、食育活動の記録を残し、掲示物等で、園での食育の取り組みについての情報を、保護者に対して発信する継続していく。

【総評】

保育者が自己評価を実施し、自身の保育観を振り返り、日々の保育業務に加え、新型コロナウイルスの感染予防対策や、行動制限緩和後の活動の拡大など、おかれた環境の中で日々考え、努力しながら、保育実践に繋げることができたと思う。

また、報告・連絡・相談・確認、情報共有の重要性や、専門職としての意識を高め、園全体の保育の質の向上に取り組むことの大切さを実感し、園内外の研修における学びの場の大切さを実感することができた。

今後の保育実践において、保育計画に基づき、遊びや食育活動、戸外活動を通して、子どもの心と身体の成長・発達、相互的な保育の充実に繋げていきたいと思う。